

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」春日校			
○保護者評価実施期間	2025年 11月 29日		～	2025年 12月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	9
○従業者評価実施期間	2025年 12月 8日		～	2025年 12月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 8日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援後に行う丁寧なフィードバックと情報共有	送迎がないため、フィードバックの時間を毎回5～10分間設けています。その日に使用したプリントや教材を保護者に見せながら、お子さんの様子やできるようになったこと等を丁寧にお伝えしています。なぜその教材を使用したか、という目的等も伝えることで、今後の支援の方向性も保護者様と一緒に相談しながら支援内容を考えることができます。フィードバックの際に保護者様から最近の様子や気になっていること、ニーズ等を聞き、今後の支援内容を決めていくようにしています。	関係機関との連携がまだできていない部分があるため、積極的に行い、幼稚園や保育園、他事業所の様子を保護者様に提供できるようにしていきます。
2	利用者それぞれに合った個別プログラムの作成	決まった支援プログラムではなく、体験、契約時から保護者様や利用者本人のニーズを丁寧に聞き取りしています。それをもとに日々の支援プログラムを担当職員を中心に考え、組むようにしています。その時の利用者本人の好きなこと、苦手なこと、興味を持っていること、気になっていること等を支援の中で利用者本人と話や保護者とのフィードバックの中で情報を収集し、1人ひとりにあった個別の支援プログラムを組んでいます。	支援プログラムが固定化しないように、担当職員だけでなく、様々な職種の職員からの意見を取り入れながら支援プログラムの作成に努めています。
3	1対1のコミュニケーション	職員との1対1での関わりの中で、他者とのコミュニケーションを学べる支援に取り組んでいます。やりとりの中で自分の気持ちを言葉や体で表出し、自身の気持ちをコントロールできるような活動を取り入れています。場や状況に応じた適切なコミュニケーションができるよう、その都度声を掛けたり、場面をイメージできるような教材を使用したりしながら支援しています。切り替えが難しい時には選択肢を与え、自分自身で選択、行動することで切り替えができるよう支援しています。また、1対1でのやりとりの中で利用者の言葉や気持ちに共感、受容し、言葉での表出が難しい時には、職員が代弁する等して語彙力の向上に努められるよう支援しています。	他校舎に専門の資格を持った職員（言語聴覚士、理学療法士、作業療法士）がいるため、その都度アドバイスをもらいながら支援の質を向上させていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	他者との関わりが少ない	1対1の個別療育とそれぞれが個別の支援室に入っでの支援となり、職員と1対1での活動が多くなっているため、他者との関わりや集団でのやりとりの機会が少ない環境にあります。	個別療育の中でも余暇時間に他者に関わる機会を設けたり、月に1回以上のイベント（小集団活動）の機会を作り、他者との関わり、集団でのやりとりの機会を増やしていきます。
2	関係機関との連携がうまくできていない	関係機関との連携として担当者会議には参加していますが、情報の共有だけで終わってしまい、その後の支援につながる事が難しい状況です。保護者様の話から幼稚園や保育園の様子を伺うことは多くありますが、実際に学校での様子を見学したり学校の先生と話をする機会がほとんどない状況です。	引き続き、担当者会議には積極的に参加し、情報の共有を図っていきます。会議参加後には、会議の内容を職員全体で共有し、今後の支援につなげていきます。また、幼稚園や保育園、関係機関との連携を行い、園への見学等も機会を作っていけるようにします。
3	専門職（言語聴覚士、理学療法士、作業療法士）がいない	自校舎には言語聴覚士、理学療法士、作業療法士等の専門職の職員がいないため、専門的な支援があまりできていない状況にあります。巡回もありますが、月に1回のため、利用者全員を見ていただくことができない環境にあります。	他校舎に専門の知識を持った職員がいるため、ZOOM等を活用して、利用者の様子や気になること、支援の内容について助言をいただく機会を積極的に設けていきます。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こどもサポート教室「きらり」春日校

公表日 2026 年 2 月 14 日

利用児童数 9

回収数 9

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	9	0	0	0		
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	8	0	0	1		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	9	0	0	0		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	9	0	0	0		
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	9	0	0	0		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	9	0	0	0		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	9	0	0	0		
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	9	0	0	0		
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	9	0	0	0		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	9	0	0	0		
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	4	2	1	2		
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	9	0	0	0		
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	9	0	0	0		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	8	0	0	1		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	9	0	0	0		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	8	1	0	0		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	8	1	0	0		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	4	2	1	2		

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	8	1	0	0		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	9	0	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	5	2	0	2		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	9	0	0	0		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	5	1	0	3		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	5	1	0	3		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	7	0	0	2		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	7	0	0	2		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	9	0	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	9	0	0	0		
	29	事業所の支援に満足していますか。	9	0	0	0		

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
こどもサポート教室「きらり」春日校		2026 年 2 月 14 日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		法令を遵守したスペースを確保しておりますが、利用者が多い日もあるため、学習と遊ぶ場所を分けています。また、1枠の人数を調整しています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		○		夕方の時間帯の利用者が多く、職員が不足する日があります。また、法令に則った人員配置のため、1日に利用できる人数の制限がある日が増えていきます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		入口から支援室までは段差のないフラットな構造となっております。	パーテーションで仕切る形の支援室のため、完全な個室にはなっていない状況です。そのため、周囲の音が聞こえる状態での支援となってしまう。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日の清掃は職員で分担して行っています。空気清浄機の稼働、換気を徹底して行い、空気の入れ替えを行っています。	建物の老朽化のため、トイレの詰まりやドアのかみ合わせの悪さ等が見られます。その都度業者を手配し、修理、修繕を行ってはいますが、完全な修繕には至っていない状況です。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		利用者の年齢や発達状況、その日の様子に合わせて個別の支援室の配置を変更しています。1人で落ち着ける空間をパーテーションで区切っています。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		毎日のミーティングを実施し、その日に行う業務を確認しています。利用者の情報共有もその際に行っています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		1年に1度事業所評価アンケートを実施し、その内容をもとに改善に向けて話し合いを行っています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎日のミーティングやその都度課題が見えた際に話し合いをし、それぞれの職員からの意見を聞き、まとめ、業務の改善に努めています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	第三者委員会は設置していませんが、定期的に事業所外の者から内部監査を受けています。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	○		発達支援研究所と提携し、月に1度の研修を受けられる体制を整えています。また、それぞれが自己研鑽のための研修を受けています。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			支援プログラムの作成は済んでいますが、公表は会社でタイミングを合わせて行う予定の為、現時点では未実施となっています。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		フェイスシート、アセスメントシートを活用し、職員間の情報共有の機会を設け、ニーズや課題の検討をしています。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		指導員に利用者の様子や支援内容を聞き、今後の課題等を相談し、計画を作成しております。また面談やモニタリングの内容を全体共有しています。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		作成時に計画内容を全体共有し、指導員がいつでも見れる場所に支援計画を保管しています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		社内です決まった形式でアセスメントを実施しています。担当の利用者だけでなく、他の利用者のアセスメントも全体で共有する時間を設けています。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		支援計画に「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」に関する内容を掲載しています。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		毎日の活動内容は基本的に担当指導員が立案する形になっています。その時に応じて他の指導員や児発管と相談し、立案しています。	担当制のため、担当指導員2名での共有が多くなっています。担当以外の指導員が支援に入る際には、その都度情報共有をしています。全体での共有はまだ定着できていない状況です。

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	少なくとも6か月に1度は個別支援計画の振り返りを行い、利用者に合わせた活動内容となるよう工夫しています。保護者や本人のニーズをその都度聞き、ニーズに合わせた活動内容を組み替えていけるよう心がけています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○	月に1回の集団でのイベントを実施しています。また、個別支援のあとに他者と関わる機会を設ける場合もあります。（余暇活動等）	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	就業開始時間から利用者が来所する日も増えているため、支援開始前に必ず打合せを行うことは日によってできていませんが、毎日1回以上、お昼前には全体でミーティングを行っています。	今後もできるだけ早い時間に全体での共有の場を設けていけるようにします。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	終業時間直前まで利用者がいる日が多いため、終了後のミーティングを毎日行うことができていませんが、その日の内に共有しておくべき事項の共有は行っています。	毎日の終業前のミーティングはできていないため、今後は支援時間の見直しをしていきます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	支援記録は毎日記入し、モニタリングの資料として活用しています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	少なくとも6か月に1度モニタリングを実施しています。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	児童発達支援管理責任者が担当児童指導員が参加できるよう調整しています。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	相談支援を整え、場合に応じて学校等を含めた担当者会議を実施しています。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	関係機関との連携を図るよう心がけています。新規利用前には担当者会議の開催を行い、情報の共有を図っています。また、保護者様や園から希望があった際に園に見学に行き話を聞く機会を設けています。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	支援内容等の情報共有を行い、卒業前に指導員同席の面談等の機会を設けています。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)			
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外泊研修に参加させているか。			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。			
	31	(31は、事業所のみ回答)			
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○	那珂川市の療育施設への見学を実施し、相談体制は整えている状態です。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○	そのような機会は積極的に設けておりません。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	支援の様子はフィードバック時に丁寧にお伝えしています。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	保護者より希望があった際に行っているため、全家庭への提供はできておりません。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	契約時に書面と口頭で説明を行っています。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	面談の際に保護者様の意思やニーズを聞き取り、支援計画を作成しています。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		支援計画書を見ていただきながら、対面にてご説明させていただいたうえで署名を頂いております。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		保護者からの要望や職員が最近の様子を見て必要と判断した際、お声を掛ける場合もあります。より相談しやすい環境づくりを目指す一環として家庭連携の体制を整えています。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		年に1回、保護者会を計画していますが、今回は新規事業所の開所とも重なり、保護者会の日程を調整しましたが、参加者が集まらず、実施できませんでした。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情受付窓口、担当者、責任者を設置し、迅速かつ適切に対応できるよう努めています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		集団イベント時には、事業所のLINEを使用して活動の様子を保護者へ発信しています。また、月に2回ホームページのブログを更新しています。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		鍵付きのキャビネットに個人情報のファイル等を保管しています。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		口頭のみでなく書面やLINEにて連絡できる体制を整えています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	地域住民の招待等は行っておりません。利用者それぞれの療育プログラムに沿い可能な範囲で検討しています。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各マニュアルを作成しており、訓練を定期的に行っています。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCPを策定し、月1回の防災訓練を実施しています。	防災訓練の実施状況が保護者に伝わっていないことが多いため、実施したことを掲示する等して、共有していきます。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		持病等は契約時に確認し、服薬や予防接種等は随時確認しています。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		アセスメント時にアレルギーについて慎重に聴取し、徹底しています。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成し、研修も定期的の実施しています。防災訓練も月1回実施しています。	時間帯や訓練を行う利用者に偏りが見られたり、避難の経路等までは確認ができていなかったりするため、毎月の防災訓練の中で確認をしていきます。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		契約時に書面と口頭で説明を行っています。安全計画訓練の実施報告書を保護者が見える場所に掲示しています。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット事案が発生した際は、報告書を作成し、全体で共有しています。今後同じことが起きないように、全体で改善策について話し合っています。	ヒヤリハットの報告書をあまりあげられていないため、気になったことがあった際は、その都度報告書を記載し、全体で共有しています。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止研修を定期的の実施しています。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		身体拘束については契約時にご説明し、必要があるお子さまには同意書にサインをいただいたうえで計画にも記載しております。	